

# がんばろう東日本

東日本大震災で被害を受けた地域の復興のため、朝来市は様々な支援を行っています。ここでは、朝来市が行っている支援の内容などを紹介します。

山元町は、仙台中心部から南へ約35km、宮城県の東南端に位置し、東に太平洋、西に阿武隈山地を望み、リンゴ・イチゴ栽培やホツキ貝水揚げなど農水産が盛んな人口約1万6千人の小さな町。「東北の湘南」と称される穏やかなこの地域をはじめ、三陸地域を3月11日14時46分ごろ、巨大地震と巨大津波が襲い、多くの尊い命と住み慣れたまちを失った。

3か月が経った今でも行方不明者の搜索は続けられ、多くの避難住民の方が不自由な生活を余儀なくされている。山元町は災害直後、兵庫県の要請で本市消防隊員が復旧にあたった町。それが縁で朝来市へ直に支援要請を受けた。被災地にとって、今なが必要なのか。今後どんな支援を必要としているのか。斎藤山元町長と二回面談。朝来市としてできる最善の支援を市民の皆さん、団体・企業の方々と行った。また、5月末まで被災家屋の調査に延べ523人の職員を派遣し、今後も即座に対応できる体制を整えた。

避難住民のケア、ライフライン、インフラの復旧など、まだまだ課題は多くあるが、被災地の一日も早い復興を願う、朝来市としてこれからもできることを皆さんといっしょに考え、行動したい。

一層のご理解とご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

朝来市長

多次勝昭



- ①山元町(4月9日撮影)
- ②山元町長(中央)、角田市長(左)と握手を交わす多次市長
- ③消防第3次隊出発式
- ④支援物資の運搬
- ⑤支援対策会議
- ⑥支援看板の設置(JR和田山駅)

